

## 第 25 号 (2013 年) 目次

巻頭特集 ベンガル研究における文学的構想力と歴史的構想力の交差に向けて  
趣旨と概要

谷口 晋吉, 丹羽 京子 p.7-10 本文 PDF[1128K]

カトマンドゥ盆地に保存されるベンガル語・ミティラー語演劇写本 北田 信 p.11-21 本文  
PDF[1410K]

カジ・ノズルル・イスラム再考—ノズルル・ギーティは「文学」か— 丹羽 京子 p.22-30  
本文 PDF[1426K]

シャンティニケトンの岡倉天心— 1902 年の英領インドにおけるタゴールとの出会いにつ  
いて— 外川 昌彦 p.31-44 本文 PDF[1448K]

ベンガル社会の形成—中世初期におけるその萌芽— 古井 龍介 p.45-53 本文 PDF[1434K]

商家の活動からみた 18 世紀末から 19 世紀前半のベンガル 神田 さやこ p.54-61 本文 PDF  
[1398K]

ベンガルの地域類型論の構築に向けて 谷口 晋吉 p.62-72 本文 PDF[1437K]

小さな窓から大きな世界を—あるベンガル研究の軌跡— 臼田 雅之 p.73-82 本文 PDF  
[1420K]

## 論文

カシミールの禁酒運動はどう伝えられたか— 1980 年代初頭インドの新聞報道とセキュラ  
リズム— 拓 徹 p.83-105 本文 PDF[860K]

### 抄録

本稿では、1982 年にジャンムー・カシミール州（インド）の南カシミールで起きた禁酒  
運動の詳細を明らかにすると同時に、この事件をめぐる新聞報道の分析を通じて、インド  
の政治言説におけるセキュラーな主体の再考を試みる。

1982 年 3 月に南カシミールの中心都市アナントナーグで分離主義団体ピープルズ・リー  
グが起こした禁酒運動は、カシミール地元のウルドゥー語紙では広範な町民の支持を得た  
市民運動と報道された。だが、この運動が攻撃対象とした数軒の酒屋の経営者がすべてマ  
イノリティー（ヒンドゥー教徒）だったため、この運動はインド全国英字紙ではイスラム  
原理主義的で反ヒンドゥー的な事件と報道された。これらのカシミール地方紙、インド全  
国紙はいずれも自らの言説を「セキュラー」と見做したが、ともにマジョリタリアニズム  
を含み持っており、歴史的なセキュラー言説がしばしば持つ偏りを露呈するものだった。

## 研究ノート

生業としての音楽家業を問う—チベット難民ポップ歌手を事例に— 山本 達也 p.106-127  
本文 PDF[1531K]

### 抄録

本論文は、インドおよびネパール在住のチベット難民のポピュラー音楽であるチベタン・  
ポップの音楽家たちの商業活動ネットワークに着目し、生業としての音楽家の実際の様相  
を描き出すことを目的とする。そして、表象やアイデンティティを取り扱ってきた旧来の  
研究が十分に論じてこなかった音楽家の実際の生活環境や彼らが形成するネットワークの

様相を描きだすと同時に、チベット難民を取りまく現状の一端を提示することを目的とする。自らを取りまくメディア環境の変化等もあって、現在、1990年代後半から形成され、また独自の発展も伴う商業活動ネットワークに依拠した活動を音楽家たちは展開しており、彼らの生活はそのネットワークに支えられている。他方、彼らの音楽に金銭を払う主催者や聴衆、商人などの人びともまた、生計を稼ぐという音楽家の意図とは離れたところで音楽活動に独自の意味づけをおこない、それこそがチベタン・ポップを取りまく商業活動ネットワークの、そしてチベット難民や彼らを取りまく人びとの固有な状況の形成に寄与している。本論文は、音楽家の商業活動ネットワークを記述・分析することで、音楽家の生業としての側面およびその商業活動ネットワークの二重性、そしてそれが明示するチベット難民や彼らを取りまく人びとの現状を明示するものである。

19 世紀インドにおける新聞と通信技術—電信を事例に— ボネア アメリカ p.128-151 本文 PDF[1550K]

抄録

植民地期インドにおける新聞に関する研究は数多いが、新聞と通信技術のかかわりに焦点をあてた研究は僅かしかない。しかし、19 世紀に実用化した蒸気船や電信は新聞の発達過程において大きな意味をもっていた。特に電信は、時間・距離・空間を越える技術として注目を浴びた。電信ネットワークの構築と拡張によって、インド亜大陸内だけでなく、イギリスとインド、ヨーロッパとアジアの間の情報交換はスピード化され、インドにおけるニュース報道にも変化がみられるようになった。本稿は、電信ルートの開設と普及を明らかにした上で、19 世紀インドで刊行された英語新聞をいくつか取り上げ、インド新聞史における技術の意味と役割について検討する。

書評

シバ・マリヤム・ジョージ（著）、伊藤るり（監訳）『女が先に移り住むとき—在米インド人看護師のトランスナショナルな生活世界—』 関口 真理 p.152-158 本文 PDF[1327K]

ラーマチャンドラ・グハ（著）、佐藤宏（訳）『インド現代史— 1947-2007 —』（上巻・下巻） 中津 雅昭 p.159-165 本文 PDF[1330K]

近藤則夫（編）『研究双書 No.599 現代インドの国際関係—メジャー・パワーへの模索—』 吉田 修 p.166-171 本文 PDF[1305K]

森本 泉『ネパールにおけるツーリズム空間の創出—カトマンドゥから描く地域像—』 藤倉 達郎 p.172-175 本文 PDF[1367K]

井田克征『ヒンドゥータントリズムにおける儀礼と解釈—シュリーヴィディヤー派の日常供養—』 永ノ尾 信悟 p.176-181 本文 PDF[1330K]

辛島昇他（編）『新版 南アジアを知る事典』 和田 一哉 p.182-186 本文 PDF[1414K]

木曾順子『インドの経済発展と人・労働』 辻田 祐子 p.187-192 本文 PDF[1378K]

鈴木晋介『つながりのジャーティヤ—スリランカの民族とカースト—』 川島 耕司 p.193-197 本文 PDF[1412K]

学会近況

日本南アジア学会第25回全国大会プログラム p.198-202 本文 PDF[607K]

全体シンポジウム 「日本と南アジアの交流一人・モノ・知一」に参加して 小谷 汪之  
p.203-208 本文 PDF[1268K]

テーマ別セッション I 近現代インドにおける食文化とアイデンティティ 井坂 理穂  
p.209-214 本文 PDF[1260K]

編集後記 井上 貴子 p.216 本文 PDF[377K]